



夏休みミニ研究

セミ

セミは分類学では、半翅目（管のよ
うな口をしている仲間）のうち、
同翅目（四つの羽全体が膜質になっ
ている仲間）にいられています。近い
仲間の昆虫にはヨコバイ、アワフキム
シ、ハゴロモなどがいますが、幼虫時
代を土の中で暮らすのはセミだけで、
その期間は種類によっ
て2〜5年といわれて
います。地中生活をし
ている幼虫の中足は土
の中を移動するとき、
体を支えるため背中
の方を向いています



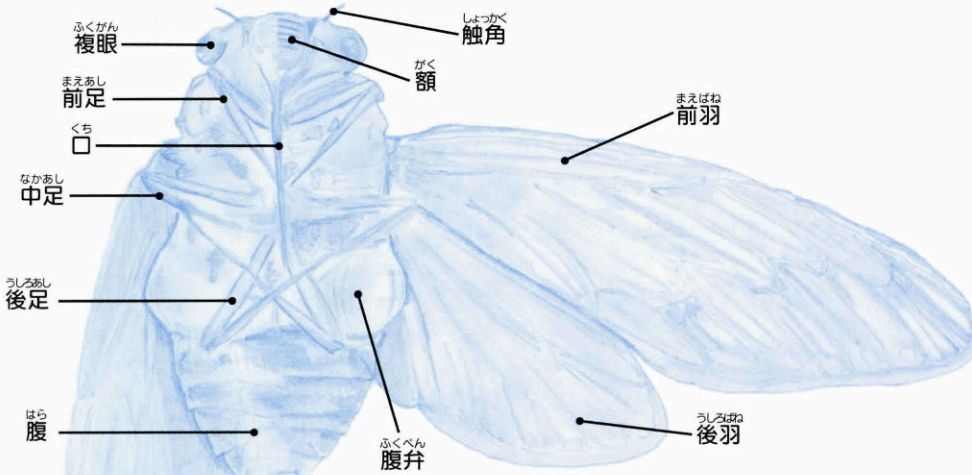
セミの幼虫

セミの口

頭を前から見ると、横すじのたくさ
んついた部分が目につきま。これを
額と呼んでいます。この額の下から
びている管がセミの口です。この管は
1本のように見えますが、実はこれは
さやで中に細い二重の管が入っている
のです。この管はどちらも雨どいが合
わさったようにして出来ています。こ
の口を木の皮のすき間からさし込み樹
液を吸います。

セミの羽

前羽のうしろべりと、後羽のまえべり
の一部はまくれあがっていて飛ぶときに
互いにひっかかりあって離れないよう
になっています。この部分を取ってしま
いと、セミはうまく飛べなくなっていま
います。セミの仲間の大きな特徴です。



セミが鳴く

音を出すもと
の発信膜が左右
の筋肉によりへ
こんだり、もと
にもどったりし
ます。この往復
によってた小
さな音が、おな
かの広い空洞に
共鳴して大きな
音になるのです。

セミが鳴く時
間は種類によっ
て違います。大
きく分けると、
午前型、午後型、
朝夕型、そして
終日型です。クマゼミ、ミンミンゼミ
は午前型。アブラゼミ、ツクツクボウ
シなどは午後型。ヒグラシは朝夕型。
ニイニイゼミは終日型といえます。セ
ミは変温動物（体温を調節する仕組み
を持たない種類）なので、外気の温度
によって体温がかわります。セミは明
るさや気温の変化に大変敏感なので、
この型がくずれることがあります。朝
夕型のヒグラシも、にわか雨が近づき
あたりが暗くなると日中でも急に鳴き
出したり、午前型のクマゼミも雨上が
り気温が急に上がると午後にも鳴いて
います。

